

## CD陽性者の感染対策

済生会八幡総合病院 感染管理認定看護師  
永田しのぶ

## 臨床症状

- 下痢:  
激しい下痢の場合もあれば、  
軟便程度の場合もある
- そのほか: 腹痛, 発熱, 血便など

## 早期発見するためには？

- 下痢症状がある患者を発見する

早期発見・早期対応のためには、  
もしかすると感染性の下痢かも？  
という疑いを持つことが大切

## 早期発見したら？

- 下痢症状がある  
↓
- 排泄物処理時のリスクが高い
  - 手袋, プラスチックエプロンまたは  
ガウンを着用
  - 石けんと流水の手洗いを実施

## 診断後の予防策は？

### 標準予防策＋接触予防策

- \* 原則個室隔離
- \* 手指衛生:  
石けんを用いた流水下手洗い
- \* 個人防護具:  
手袋, プラスチックエプロンまたは  
ガウン



## 診断後の予防策は？

### 標準予防策＋接触予防策

- \* トイレ: 患者専用
- \* 患者に使用する物品: 患者専用
- \* 環境整備: 次亜塩素酸ナトリウム  
(1000ppm)



## 診断後の予防策は？

- トイレ：患者専用  
「共用トイレしか利用できない...」
- 1室を患者専用にする
- トイレを使用したら、そのつど次亜塩素酸ナトリウムで清拭(5000ppm)

## 診断後の予防策は？

- 患者に使用する物品：患者専用
- 十分に洗浄し次亜塩素酸ナトリウム(1000～5000ppm)に浸漬
- 浸漬できない場合は、次亜塩素酸ナトリウムで複数回清拭



## 個室がない場合は？

- 原則は個室管理が望ましい
  - 集団発生⇒集団隔離(コホート)
- 「CD陰性者と同室せざるを得ない...」
- ベッド間隔を十分に確保
  - カーテンなどを利用しゾーニングする

## おむつの処理は？

- 排泄介助は密に接するためガウンの着用が望ましい

汚れたおむつは  
すぐにビニール袋に密閉

\* 芽胞の状態では乾燥した環境でも長期間生存可能

## 便器の取り扱いとは？

- ポータブルトイレ、便尿器の処理
- 自動洗浄消毒器が望ましい
- なければ流水とブラシで洗浄し、次亜塩素酸ナトリウム(5000ppm)で浸漬消毒

\* 洗浄作業時は  
手袋・プラスチックエプロン



## 接触予防策解除の基準は？

- 隔離解除の明確な基準はない
- 【日本環境感染学会】
- ①症状が回復した(下痢がおさまった)時点
  - ②バンコマイシンあるいはメロニダゾール治療終了後
  - ③バンコマイシンあるいはメロニダゾール治療終了後3日後

## 接触予防策解除の基準は？

【CDC「隔離予防策のためのガイドライン」】

- ・予防策の実施期間を「症状が消えるまで」としている

## 接触予防策解除の基準は？

- ・下痢症状が消失した時点で  
多床室での対応許可

**\*ただし、おむつ交換時の標準予防策  
(手袋、プラスチックエプロンまたは  
ガウンの着用は継続)**